

事務事業評価シート

(平成 26 年度実施事業)

事務事業名	道路橋りょう維持管理事業			事業コード	1753
所属コード	155000	課等名	[玉山]建設課	係名	建設グループ
課長名	水澤 豊彦	担当者名	岡田 浩幸	内線番号	4400-237
評価分類	☒ 一般 ☐ 公の施設 ☐ 大規模公共事業 ☐ 補助金 ☐ 内部管理				

1 事務事業の基本情報・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 概要（旧総合計画体系における位置づけ）

総合計画 体系（旧）	施策の柱	快適な都市機能	コード	7
	施策	快適な居住環境の向上	コード	3
	基本事業	生活道路環境の向上	コード	1
予算費目名 (H26)	一般会計 8 款 2 項 2 目道路橋りょう維持管理事業（001-01）			
特記事項 (H26)	総合計画主要事業			
事業期間	☐ 単年度 ☒ 単年度繰返 ☐ 期間限定複数年度		開始年度	不明/年度
根拠法令等 (H26)	道路法			

(2) 事務事業の概要

市道の維持管理として、舗装補修、一般維持工事及び施設維持保守点検等を行う。

(3) この事務事業を開始したきっかけ（いつ頃どんな経緯で開始されたのか）

一般交通の安全確保と沿道環境の維持を目的とした道路管理者が行う維持管理業務として開始された。

(4) 事務事業を取り巻く現在の状況はどうか。(3)からどう変化したか。

厳しい財政状況により全ての要望への対応が困難であり、今後、計画的な改築や修繕を行う場合に緊急度や重要度を加味した選択が必要となる。

2 事務事業の実施状況（Do）・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 対象（誰が、何が対象か）

市道とその利用者

(2) 対象指標（対象の大きさを示す指標）

指標項目	単位	23 年度 実績	24 年度 実績	25 年度 実績	26 年度 見込み	26 年度 実績
A 市道管理路線数	路線	330	330	330	330	330
B						
C						

(3) 26 年度に実施した主な活動・手順

既存道路機能及び交通安全を確保するため、道路施設の補修、舗装補修（穴埋め補修等）及び清掃等を実施。

(4) 活動指標（事務事業の活動量を示す指標）

指標項目	単位	23 年度 実績	24 年度 実績	25 年度 実績	26 年度 目標値	26 年度 実績
A 舗装補修予算措置対応面積	㎡	1,000	1,000	48,000	1,000	1,000
B 道路施設補修予算措置対応箇所数	箇所	30	30	40	30	30
C 道路清掃予算措置延長	km	31	31	31	31	31

(5) 意図 (対象をどのように変えるのか)

一般交通の安全確保と沿道環境の維持。

(6) 成果指標（意図の達成度を示す指標）

指標項目	性格	単位	23 年度 実績	24 年度 実績	25 年度 実績	26 年度 目標値	26 年度 実績
A 舗装補修実績面積	☐ 上げる ☐ 下げる ☒ 維持	m ²	1,000	1,000	48,000	1,000	1,000
B 道路施設補修予算措置対応箇所数	☐ 上げる ☐ 下げる ☒ 維持	箇所	30	30	40	30	30
C 道路清掃予算措置延長	☐ 上げる ☐ 下げる ☒ 維持	km	31	31	31	31	31

(7) 事業費

項目	財源内訳	単位	23 年度 実績	24 年度 実績	25 年度 実績	26 年度 計画	26 年度 実績
事業費	①国	千円	3,300	1,386	135,297	6,050	1,644
	②県	千円	0	0	0	0	0
	③地方債	千円	2,400	0	110,600	0	0
	④一般財源	千円	37,473	30,671	30,029	37,867	37,272
	⑤その他()	千円	0	0	0	0	0
	A 小計 ①～⑤	千円	43,173	32,057	275,926	43,917	38,916
人件費	⑥延べ業務時間数	時間	5,000	5,000	10,000	5,000	5,000
	B 職員人件費 ⑥×4,000 円	千円	20,000	20,000	40,000	20,000	20,000
計	トータルコスト A+B	千円	63,173	52,057	315,926	63,917	58,916
備考							

3 事務事業の評価 (See)

(1) 必要性評価 (評価分類が「内部管理」の事務事業は記入不要)

① 施策体系との整合性

結びついている

理由：道路の安全かつ円滑な通行の確保に奇与している。

② 市の関与の妥当性

妥当である。

理由：道路管理者である市が実施すべき事業である。

③ 対象の妥当性

現状で妥当である。

理由：盛岡市（玉山区）が管理する道路施設のみが対象であり，見直す余地はない。

④ 廃止・休止の影響

影響がある。

理由：道路の安全かつ円滑な通行の確保が困難となり，多大な影響が生じる。

(2) 有効性評価 (成果の向上余地)

向上の余地がない。

理由：道路管理延長の増加に対し，施設は老朽化しているが，施設の改修等の整備による予算確保により未然に事故防止，利用者の利便向上を図ることは出来る。

(3) 公平性評価 (評価分類が「内部管理」の事務事業は記入不要)

(受益機会の適正化余地)

公平・公正である。

理由：市道は公共性の高い施設のため。

(費用負担の適正化余地)

公平・公正である。

理由：盛岡市所有の管理施設であり，特定の受益として費用負担する余地はない。

(4) 効率性評価

(事業費の削減余地)

削減できない。

理由：安全性や耐久性を考慮して実施しており，これ以上の経費の削減は出来ない。

(人件費の削減余地)

削減できない。

理由：限られた事業費枠の為，直営作業によって補っており，改修整備に対応していくためには現状でも困難な状況である。

4 事務事業の改革案（Plan）・・・・・・・・・・・・・・・・

（1）概要（新しい総合計画体系における位置付け）

総合計画 体系（新）	施策（方針）	都市基盤施設の維持・強化	コード	26
	小施策（推進項目）	安全・快適な道路環境の向上	コード	2

（2）改革改善の方向性

緊急度や重要度を加味して選択し，現状を維持する。

（3）改革改善に向けて想定される問題点及びその克服方法

引き続き事業費の確保を図る。

5 課長意見・・・・・・・・・・・・・・・・

（1）今後の方向性

- ☒ 現状維持（従来どおりで特に改革改善をしない）
- ☐ 改革改善を行う（事業の統廃合・連携を含む）
- ☐ 終了・廃止・休止

（2）全体総括・今後の改革改善の内容

市道の安全な道路機能を確保するため，緊急性・重要性を考慮して，維持修繕を行った。今後，安全・安心な道路機能を確保するため，緊急性・重要性を加味し維持修繕等を継続する。